

地方連合音楽委員会ネットワーク

福岡地方バプテスト連合音楽委員会主催

第2回賛美歌創作研修会 報告

踊 真一郎 (委員長/久留米)

昨年度から、福岡地方連合教会音楽委員会では、「賛美歌創作」を教会形成・教会の活性化の切り口として提案・推進しています。昨年10月に、第1回目の賛美歌創作研修会を行いました。去る4月30日に、第2回の賛美歌創作研修会を行い、前回に続いて有意義な学びの時となりました。福岡地方連合教会音楽委員会では、少なくとも2013年度までは、この賛美歌創作運動の推進を継続する予定です。

今回も前回同様、外部講師は招かずに、委員会内で懇談を重ね、基調講演とワークの時間を岩崎光洋牧師（自由ヶ丘）に担って頂きました。今回初めて参加した人にも解りやすく、前回から引き続いて参加した人にとっても、新たな発見が与えられる研修会となりました。

他の地方連合の方々にもこの賛美歌創作の意義を分かち合いたいと思い、ご報告いたします。

(第1回の報告は『NEWSONG』No.32付録、連盟HPをご参照下さい)

集会名： 賛美歌創作研修会

－賛美歌作りは礼拝作り、礼拝作りは教会作り－

日時： 2012年4月30日（月・休）10:00－15:30

9:30－ 受付

10:00－ 礼拝と基調講演

12:00－ 昼食

13:00－ ワーク

15:00－ 閉会礼拝

会場： 春日原教会

参加者： 31名（子ども4名、アルバイト1名を含む）

基調講演:岩崎光洋

集会の副題である「賛美歌作りは礼拝作り、礼拝作りは教会作り」の説明を「教会とは?」「礼拝とは?」「賛美とは?」の順で行った。

教会とは建物や牧師、また人の集まりを指すのでなく、「礼拝があるところ」を指す。

礼拝には「啓示」「応答」「交わり」の3つの要素がある。啓示と応答の循環の中に礼拝のダイナミズムが生まれる。礼拝がイキイキしている教会は元気であるが、礼拝が力を失っている教会は活動そのものが停滞する。

では、賛美は「啓示、応答、交わり」のどこにあたるのか。歌詞（内容）や歌われるタイミングによってその要素を変える。ただ、一貫して言われることは、会衆賛美は礼拝において、全ての参加者が等しく担う奉仕。フランクリン・M・セグラーとランドル・ブラッドリー共著『キリスト者の礼拝 神学と実際』から「熱心な会衆賛美が起こっていないければ、神と会衆が結びついていないということ。この警告は見過ごされてはならない」との指摘を引用。

改めて副題「賛美歌作りは礼拝作り、礼拝作りは教会作り」に戻り、以下のようにまとめた。

「会衆賛美が変わると、教会が変わる。それは会衆賛美を通して礼拝者が『お客さん』意識から『自分も奉仕者の一人』との当事者意識へと変わることによって、礼拝がより生き生きしたものとなるからである。礼拝が力を持つ時、教会は必ず成長する」

そして、この具体的な働きとして、諸教会が、諸教会ならではの信仰告白と使命などの要素と目的を踏まえた諸教会独自の会衆賛美を生み出して欲しいと訴えられた。

具体的な手順として以下の要素を示してくださった。

1. 準備 ・・・言葉やメロディーを蓄える
2. 計画立案 ・・・いつ、どこで歌うのかを考える。
3. 聞く（知る） ・・・教会の人々・聖書・地域に聞き、自分以外の声を知る。
4. 書く ・・・キーワード、単語からでも自分たちの歌うメッセージを書く。
5. 推敲 ・・・敬意を持って、互いの思いを確認し、言葉を洗練していく。
6. 継続 ・・・初めから熟練者はいない。ひたすら継続すること。

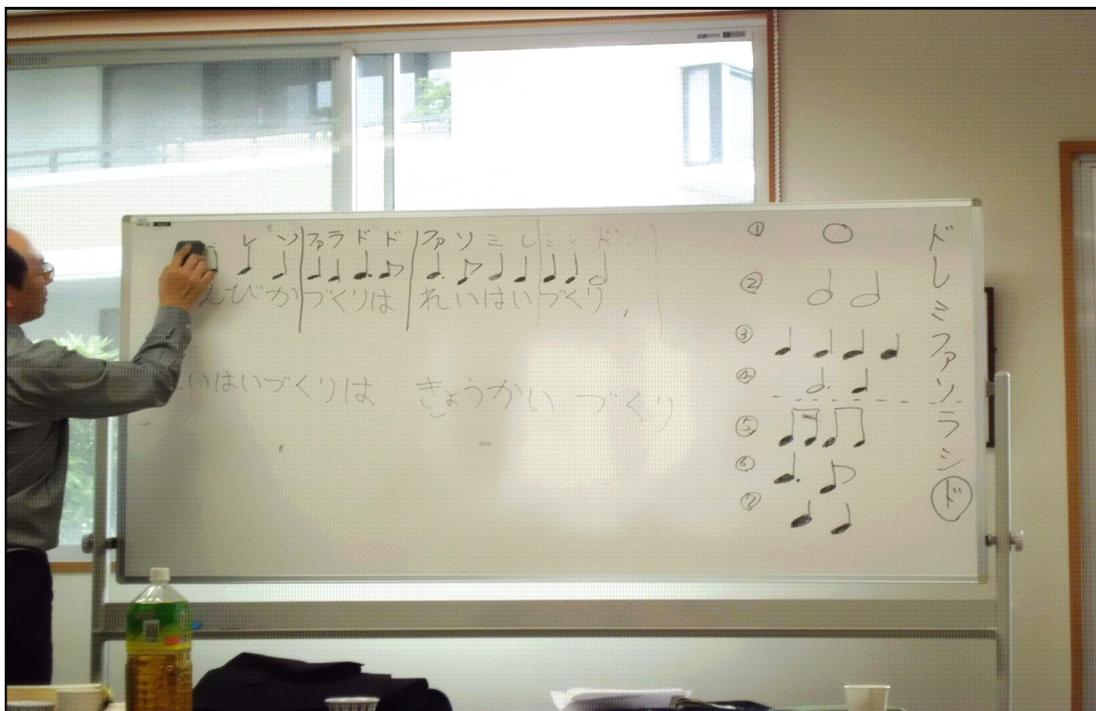
ワーク：岩崎光洋

過去に作った賛美歌「Love&Peace」（大富教会中高生バンドの曲）を歌い、曲のできた背景を紹介。中高生が歌いたいキーワードをあげたことから曲が作られていったというケースから、賛美歌を作る際に誰が歌うのか、どこで歌うのか、何のために歌うのか、歌うキーワードな何かといった条件設定をみた。

次に新生讃美歌21「栄光と賛美」のメロディーの音程、翻訳歌詞の韻などを紹介。

参加者からの具体的な質問にも幾つか答えたが、特にミーターを用いて1つの賛美歌の歌詞を同じミーターである別の賛美歌メロディーでも歌えることを示し、実際に歌った。また、集会の副題である「賛美歌作りは礼拝作り、礼拝作りは教会作り」を、既存の賛美歌メロディーに合わせて歌えることも示した。このことは、既成のメロディーを用いながらオリジナルの歌詞を歌う「替え歌賛美」も立派な作品であると示した。

その後、「パズルの作曲法」を紹介し、参加者の着席順に音符を指定してもらい、次に別の参加者に音階を指定してもらい、繋げていく作業を行った。幾つかの手直しが必要だったし、時間の関係上じゅうぶんな手直しをすることはできなかったが、実際にちょっとした曲の歌い出しを作ったことで参加者の表情は明るかった。



参加者と共にパズル的な作曲法を楽しんでみました。
歌詞は集会のサブタイトルの
「賛美歌作りは礼拝作り、礼拝作りは教会作り」でした

アンケート集計

- ・ 研修に来たのは初めてだったのですが、とても楽しかったです。音楽の事は全く分からないけど、皆が言った音で賛美歌ができてよかったです。学んだ事をいかせたらと思います。
- ・ 全体的にとっても楽しく学ぶ事ができ、感謝な一日でした。賛美歌作りが礼拝・教会を豊かにする鍵であることをわかり易くきく事ができました。
- ・ 自分でも作詞作曲してみようかな、楽しそうだなと思いました。ただ、音楽の基礎がないので、我流になりそう。まずは8686の作詞を試してみようと思います。
- ・ とてもわかりやすい研修会でした。創作賛美を考えるスタートの日でしたので、積極的に進めていければと思いました。肩の力を抜いて、気楽に始めようかと考えさせられました。
- ・ 昨年末にバプテスマを受けたばかりで、賛美歌の礼拝における役割を深く考えたことはありませんでした。啓示、応答、交わりという3つを全て担っているという、賛美歌の担っている大きな役割を知ることができ、よかったと思います！
- ・ 正直、賛美歌創作には全く興味がなかったのですが、会衆賛美の意味、礼拝における賛美の役割、可能性を学んだことにより、自分の教会の賛美を見直してみたいと思いました。必要があれば作ってみようかな・・・（作れる気になってしまった・・・汗）と思いました。もともと参加するつもりはありませんでしたが、1回目の研修会に参加した方が、とても良い研修会だったので、と言っていたので参加してみたのですが、本当に学ぶところの多い研修会でした。委員の皆様、お疲れ様でした。
- ・ 午前中の講演はもっと多くの地方連合の方々、自分の伝道所の仲間にも聴かせたかった。Love&Peaceに基づいた賛美歌創りは面白く、興味深かった。閉会礼拝のメッセージで伝道の苦闘と賛美歌の関係や、音楽委員会の方々の意図が理解できた。
- ・ 礼拝でいつも何気なく歌っていた会衆賛美が今日の研修会でこんなに深いものであることを知りました。賛美は歌って楽しいだけでなく、作られた方の御苦労もわかりました。皆で詞を出し合って音符を出し合って教会の賛美歌を作れることを学びました。
- ・ 詩を作り、ミーターを用いれば自分で賛美歌を創作することが出来ることがわかり、創作の意欲が生まれて、今日の研修会に参加できて大変良かったと思う。岩崎先生、今日は本当にお疲れ様でした。委員の皆様のお働きを心より感謝いたします。
- ・ とても感謝しています。とくにパズルの作曲法は大変示唆を与えられました。音楽にたしなみのない人も含めて、全員で参加して、一つの曲を作ることが出来る。また、この方法なら小規模の教会でも挑戦できる。素晴らしい方法だと思います。